

## 第2回講演会 「日本における宇宙開発の将来展望」

〔協賛：電気学会東海支部、精密工学会東海支部、自動車技術会中部支部、計測自動制御学会中部支部、日本材料学会東海支部、日本設計工学会中部支部、日本塑性加工学会東海支部〕

**開催日：** 2013年 11月 8日(金) 13:45～17:00

**会場：** 名城大学 名駅サテライト 多目的室 (KDX 名古屋駅前ビル 13 階)  
(名古屋市中村区名駅 3-26-8 JR 東海「名古屋駅」からユニモール地下街 4 番出口を出てすぐ)

### 趣 旨：

1950 年代のペンシルロケット発射試験から始まった日本の宇宙開発は、国産ロケットによる輸送手段、国際宇宙ステーションを通じた有人宇宙技術の獲得、気象・放送等の衛星の開発及び運用による成果を上げてきました。

今回、日本における様々な宇宙開発の中で H-II A/H-II B ロケットの世界市場に向けた商業化への取組み/将来ロケットの開発構想について、中部地方の大学及び企業が中心となって進めた中小型衛星 Chubusat-1(金シャチ1号)及び X 線天文衛星 ASTRO-H 等についての将来展望について紹介していただきます。

### 題目・講師：

13:45～13:50 開会挨拶と講師ご紹介 日本機械学会東海支部 担当幹事

13:50～15:15 講演 I『ロケットの将来展望について』

講師：三菱重工株式会社 航空宇宙事業本部 宇宙事業部長 浅田 正一郎氏

概要：国産ロケット H-II A/H-II B の、世界市場に向けた商業化への取組みや将来ロケットの開発構想について紹介していただきます。

15:15～15:30 休憩

15:30～16:55 講演 II『人工衛星の将来展望について』

講師：名古屋大学 太陽地球環境研究所 教授 田島 宏康氏

概要：ChubuSat-1(金シャチ)プロジェクト、ASTRO-H 等の人工衛星開発の話を中心に人工衛星に関する将来展望について紹介していただきます

16:55～17:00 閉会の挨拶 日本機械学会東海支部 担当幹事

**定 員：** 60名

**締 切：** 2013年 11月 1日(金)

**参加費：** 会員 2,500 円、会員外 3,500 円、学生員 1,000 円、一般学生 1,500 円  
当日支払いは+1,000 円

**企画幹事：** 三菱重工業(株) 水野 努  
トヨタ自動車(株) 浜本 徹

**申込先：** 右記 Web サイトからお申込下さい。(http://www.jsme.or.jp/tk/)

**問合せ先：** 〒464-8603 名古屋市千種区不老町 名古屋大学工学部機械工学教室内  
日本機械学会東海支部  
電話・FAX (052)789-4494, E-mail: tokaim@nuem.nagoya-u.ac.jp